

カキ殻を敷設した大多府沖のナマコ調査

県では、平成27年度から事業規模でカキ殻を利用した底質環境の改善を行い、ウシノシタ類やナマコ等の資源拡大に取り組んでいます。今回、そのカキ殻敷設区（以下：カキ殻区）における効果調査の結果を報告します。

12月11日に備前市日生町の大多府沖のカキ殻区及び周辺の対照区で、小型底曳き網を用いて資源状況調査を行いました（図1）。

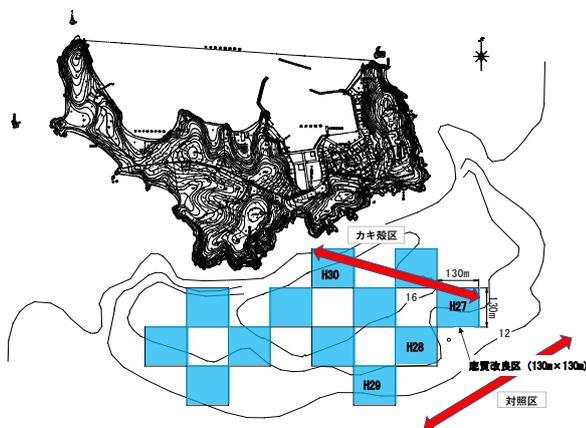


図1 カキ殻設置、操業場所

使用した漁具は、ビームの長さが10m、袋網の目合いは7節（約2.2cm）のものを使用しました（図2）。曳航速度は2～3km/hで約1時間操業を行いました。

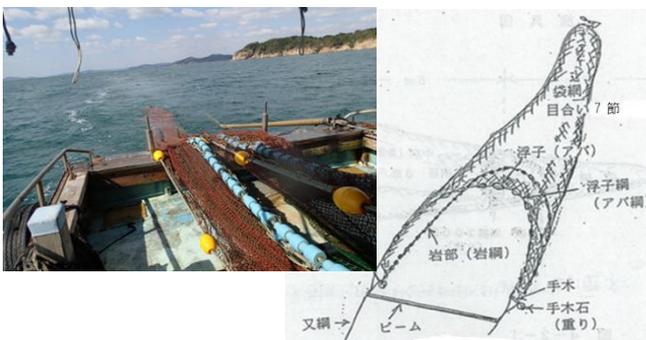


図2 漁具

調査結果は、カキ殻区でナマコが47尾約12kg（平均体重255g）、対照区で1尾約0.2kgとカキ

殻区で多く採捕されました（図3,4）。ナマコの他にもカキ殻区でクロダイ、ヒラメ、マダイ、カサゴ等多くの有用魚種が採捕され、カキ殻敷設の効果が確認されました。今年度、同様の調査を今後3回予定しており、カキ殻敷設の効果をより詳細に明らかにしていきたいと思ひます。



図3 カキ殻区で採捕された魚介類



図4 対照区で採捕された魚介類

来年度以降もカキ殻の敷設を予定しており、ナマコ調査をはじめ底質環境、潜水集魚調査等を予定していますので、関係者の皆様にはご協力をよろしくお願ひします。（水圏環境室：古村）